

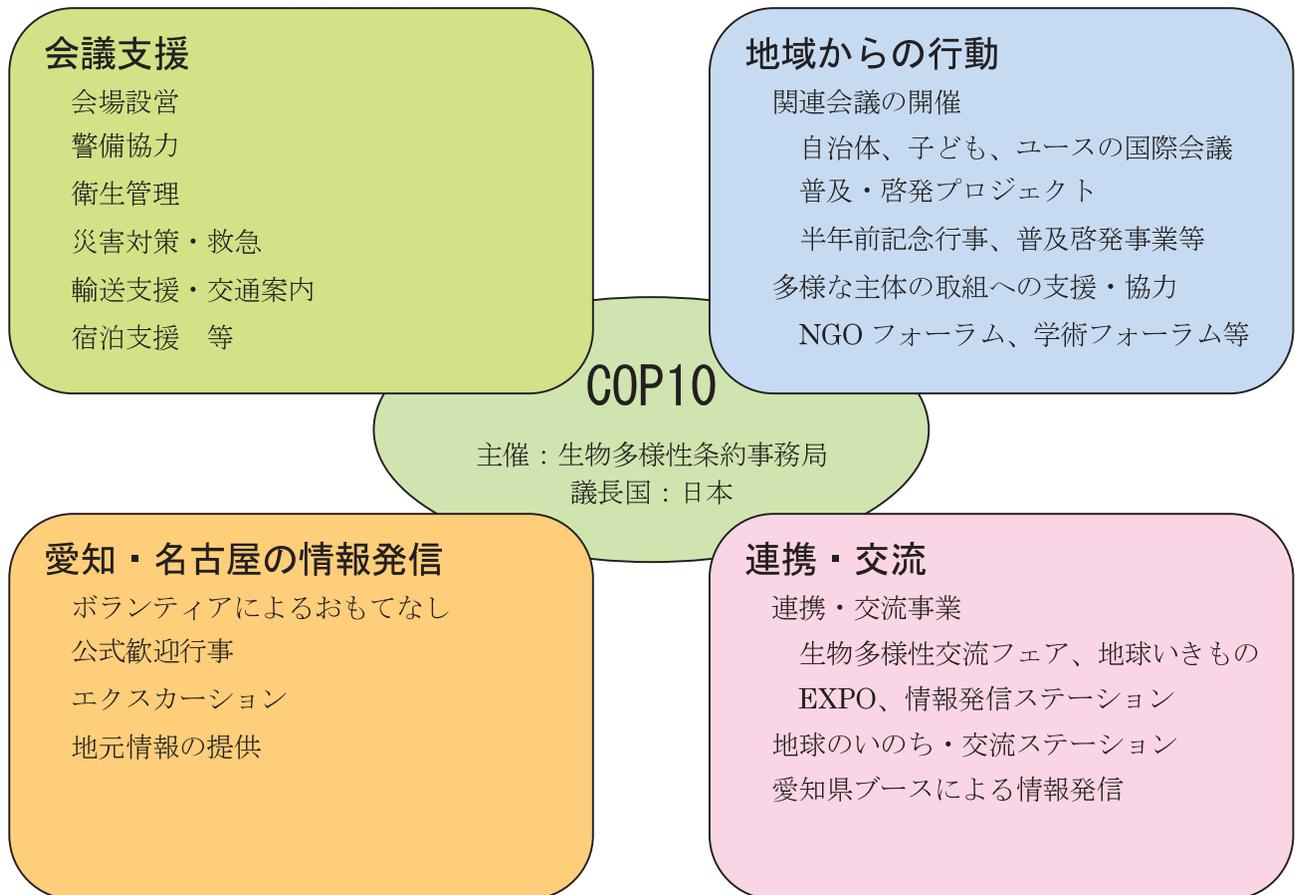
### 第3節 生物多様性条約第10回締約国会議の開催及び関連行事等

【環境政策課】

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）を、地域をあげて支援するため、県は、平成20年9月、名古屋市、地元経済界とともに**生物多様性条約支援実行委員会**（以下「COP10 支援実行委員会」といいます。）を設立しました。COP10 支援実行委員会では、COP10 の成功に向け、万全の態勢で国際会議を支援する「会議支援」、愛知・名古屋の魅力を国内外に広く発信する「愛知・

名古屋の魅力発信」、自然と共生する地域づくりに向け地域からの行動を展開する「地域からの行動」、様々な主体と連携し交流を深める「連携・交流」を地元の役割の4本柱と位置づけ、様々な取組を行いました。日本政府、条約事務局、会議参加者からは、開催地元による支援やホスピタリティに対し、多くの謝意が伝えられました。

図 9-3-1 COP10 における地元の役割



#### 1 会議の概要

生物多様性条約締約国会議（COP）は、1992年にブラジル・リオ・デジャネイロで開催された**国連環境開発会議（UNCED、「地球サミット」**）で、**気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）**とともに生まれた**生物の多様性**に

関する条約（CBD）の締約国が集まる会議で、COP10はその第10回目の会議です。

COP10には、締約国、関係国際機関、NGO等13,000人を超える参加者が集まり、**生物多様性条約**の定める目的の実現に向け、各国が持つ課題やその解決の方法、世界的な枠組みづくり等について

で議論が行われました。その結果、COP・MOP5  
においては、バイオセーフティに関するカルタヘ  
ナ議定書の責任及び救済についての名古屋・クア  
ラルンプール補足議定書、COP10 においては、

遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する  
名古屋議定書と新戦略計画・愛知目標（愛知ター  
ゲット）の採択がなされるなど、生物多様性条約  
の歴史に残る大きな成果が得られました。

<p>生物の多様性に関する条約（生物多様性条約）の概要</p> <p>◆ 経緯</p> <p>平成4年5月 生物多様性条約交渉会議で本文採択 6月 地球サミットで署名開放 平成5年5月 日本が条約締結 12月 条約発効</p> <p>◆ 締約国</p> <p>192 各国及び欧州連合（EU） ※ 平成23年6月1日現在</p> <p>◆ 条約の目的</p> <p>① 地球上の多様な生物をその生育環境とともに保全すること ② 生物資源を持続可能であるように利用すること ③ 遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること</p>	
--	--

【会議の開催結果】

開催期間	平成22年（2010年）10月11日（月）から29日（金）まで ① カルタヘナ議定書第5回締約国会議（COP-MOP5） 10月11日（月）から15日（金）まで ② 生物多様性条約第10回締約国会議（COP10） 10月18日（月）から29日（金）まで （閣僚級会合：10月27日（水）から29日（金）まで） ※ 最終日の議事は30日（土）未明まで延長された。
会場	名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）
主催	生物多様性条約事務局（本部：カナダ・モントリオール） （議長国：日本）
参加規模	13,000人以上（180の締約国・地域（EU）、関連国際機関、NGOなど）
主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性保全の新戦略計画・愛知目標（愛知ターゲット）の採択 ※ 新戦略計画の短期目標は、COP10で議長を務めた松本環境大臣の提案により、「愛知目標（愛知ターゲット）」と名付けられた。</li> <li>・遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する「名古屋議定書」の採択 微生物や植物などの生物遺伝資源を使用して医薬品や食品などを開発した場合等にそこから生じる利益を遺伝資源の原産国にも配分するためのルール。先進国と途上国の間で利害が大きく対立し、最終日の議論は10月30日未明までずれ込んだが、議長案の提示や粘り強い交渉の結果、法的拘束力のある初めての国際的枠組みが採択された。</li> <li>・バイオセーフティに関するカルタヘナ議定書の責任と救済についての名古屋・クアラルンプール補足議定書の採択</li> <li>・条約会議（COP10）に先立って開催されたCOP-MOP5において、カルタヘナ議定書の補足議定書として、遺伝子組換え生物が生態系に被害を与えた場合の補償ルールである「名古屋・クアラルンプール補足議定書」が採択された。</li> </ul> <p>※ カルタヘナ議定書：遺伝子組換え生物の国境を越える移動により生物多様性保全及び持続可能な利用に悪影響を及ぼさないための手続等を定めたもの</p>



COP10 本体会合

## 2 「愛知・名古屋」の役割

### (1) 会議支援

COP10 支援実行委員会は、会議が安全・安心かつ円滑に運営されるよう、会議の主催者で

ある生物多様性条約事務局、議長国である日本政府と連携・協力しながら、会場の確保、警備協力、災害・救急対応、参加者の輸送、宿泊の支援等の会議支援を行いました。

#### 【地元による会議支援の内容】

項目	支援内容
会場設営	名古屋国際会議場を、COP10 期間中、専用で利用できるよう確保し、会場管理を行った。また、おもてなしの一環として、LED スクリーンを備えたステージ及び休憩用大型テントを設置した。
警備協力	日本政府、生物多様性条約事務局、UNDSS（国連セキュリティー&セーフティー）と連携し、会場内及び周辺延べ 3,730 ポストに警備員を 24 時間態勢で配置するなどの警備協力を行った。
衛生管理	会場内外において、環境衛生関係の調査及び指導等を行ったほか、食中毒等の事故を防止するため、会場で提供される食品の検査や関連施設の監視指導を実施した。
災害対策・救急	外務省 COP10 日本準備事務局、名古屋国際会議場とともに自衛防災組織を編成し、災害発生に備えた。また、会議場内に医師、看護師、救急車を常駐し、急病人の発生に備えた。
輸送支援・交通案内	会議参加者に地下鉄、リニモ、あおなみ線、名鉄（セントレア・名古屋往復）の無料パスを 11,000 枚以上提供し、参加者の交通便利を図るとともに環境に優しい公共交通機関の利用を促した。また、中部国際空港及び名古屋市内の主要駅計 12 箇所に案内カウンターを設け、外国語による交通案内を行った。
宿泊支援	名古屋市内に 58 のホテルを確保し、参加者専用のウェブ予約システムにより約 2,700 人泊の予約を受け付けるなど、会議参加者がスムーズに宿泊できるよう支援した。
環境配慮	グリーン購入に基づく物品調達、環境に配慮したコンgresバッグの作成・配布、会議備品への間伐材の活用、会議等開催に伴い排出された温室効果ガス 92.41t-CO <sub>2</sub> のクレジットやグリーン電力証書購入によるカーボン・オフセット、会場におけるゴミの 11 分別、資源のリサイクル、エコカーによる関係者輸送を実施するなど、環境に配慮した会議運営に努めた。

## （2）愛知・名古屋の魅力発信

COP10 の開催を契機に、開催地である愛知・名古屋の魅力を会議参加者等に発信するた

め、ボランティアによるおもてなしやエクスカーション（参加者向けの視察ツアー）等を実施しました。

### 【地元による取組の内容】

項目	支援内容
ボランティアによるおもてなし	会議場内の案内、ゴミ分別案内、地元情報の提供、主要駅等での交通案内などの業務に延べ約 2,600 名のボランティアを配置し、ホスピタリティあふれるおもてなしの心で会議運営を支援した。
公式歓迎行事	公式歓迎行事として、3 回の歓迎レセプションを実施した。レセプションでは、参加者に地域をあげた歓迎の意を表するとともに、地元の食材や文化など「あいち・なごや」の魅力アピールした。
エクスカーション	会議参加者に地域の魅力をアピールするためエクスカーション（視察ツアー）を実施し、県内及び中部 10 県の 25 コース（国及び各県の主催を含む）に合計 659 人（うち外国人 582 人）の参加を得た。
地元情報の提供	会議会場内において、地元情報カウンターの設置、PR 映像の随時上映、各種展示を行ったほか、会議参加者には、地元の情報を掲載したガイドブック類とともに、子どもの絵とメッセージを添えたタンブラー、各種 PR グッズ等を配布した。また、会議会場周辺や市内幹線道路、主要駅、公共交通機関等に歓迎装飾を施し、歓迎の意を表した。

## （3）地域からの行動

COP10 に向け、COP10 や生物多様性に対する県民の理解を深め、開催機運を醸成するとともに、生物多様性に配慮した地域づくりを進めるため、多様な主体による国際会議や様々な普及啓発事業を実施しました。これら事業には多くの県民のみなさんが参加し、この地域の生物多様性に対する理解は大きく広がりました。

### ア 関連会議

#### （ア）生物多様性国際自治体会議

生物多様性の保全と持続可能な利用には地域の施策を担う地方自治体の役割が重要であり、また、地球規模の視野で取組を進めるには国を超えた自治体同士の情報交換が不可欠であることから、「生物多様性のための地域行動」の一層の拡大を呼びかける生物多様性国際自治体会議を開催しました。

平成 22 年 10 月 24 日（日）から 26 日（火）まで、名古屋東急ホテル（名古屋市中区）を会場に生物多様性国際自治体会議が開催されました。会議には、30 か国 249 団体 679 名（うち、

自治体 185 団体 452 人）が参加し、「都市と生物多様性」をテーマに発表や情報交換が行われました。会議の結果、「地方自治体と生物多様性に関する愛知・名古屋宣言」が決議され、知事及び名古屋市長が COP10 閣僚級会合で発表しました。なお、「宣言」には「生物多様性のためのサブナショナル政府、都市、その他、地方自治体に関する行動計画（2011～2020 年）」が盛り込まれ、同計画は、10 月 29 日、COP10 において採択されました。



議論の様子

### (イ) 生物多様性国際ユース会議 in 愛知 2010

平成 22 年 8 月 21 日（土）から 27 日（金）まで、あいち健康プラザ（知多郡東浦町）、名古屋大学豊田講堂（名古屋市千種区）などを会場に、次代を担う世界の青年による交流と生物多様性に関する意識の向上を目標として、生物多様性国際ユース会議が開催されました。会議には、日本を含む世界 66 か国の青年 100 名（国内 30 名、海外 70 名）が参加しました。会議の成果は COP10 サイドイベントにおいて代表者により発表されたほか、閣僚級会合において、代表の青年により各国首脳等に向けてアピールされました。



議論の様子

### (ウ) 子ども COP10 あいち・なごや

平成 22 年 10 月 23 日（土）から 24 日（日）まで、愛知県美浜少年自然の家（知多郡美浜町）、ナディアパーク・アートピアホール（名古屋市中区）などを会場に子ども COP10 あいち・なごや（国際子ども環境会議）が開催されました。会議には、世界 32 か国の子どもたち（10 歳～15 歳）202 名（国内 122 名、海外 80 名）が参加し、「生物多様性の保全」をテーマに議論を行いました。会議の結果は「提言」として取りまとめられ、10 月 27 日の COP10 閣僚級会合開会式において、子どもたちの代表により発表されました。



COP10 閣僚級会合における発表

### イ 普及・啓発プロジェクト

COP10 開催に向け、COP10 や生物多様性の意義を広く県民に周知するため、COP10 支援実行委員会及び県が様々な普及啓発事業を実施しました。

#### (ア) COP10 支援実行委員会による取組

##### ○ 参加ふれあい～木づかいで COP10～

平成 21 年 10 月、小中学生とその保護者からなる「2010 年 COP10 木づかい組」を結成し、間伐体験や木工教室、勉強会等を通じて生物多様性の大切さを学ぶプログラムを実施しました。子どもたちが切り出した間伐材を使用した会議用の国名等表示プレート、机、ベンチは、平成 22 年 10 月 11 日（月）に行われた COP-MOP5 開会式においてアーメド・ジョグラフ生物多様性条約事務局長、鹿野道彦農林水産大臣へ贈呈され、会議備品として活用されました。

##### ○ COP10 開催記念自然観察会

COP10 の開催趣旨に賛同し、COP10 支援実行委員会と共に自然観察会を開催する団体を募集・登録する COP10 開催記念自然観察会を実施し、平成 21 年 10 月から平成 22 年 10 月までに計 36 団体が実施する延べ 591 回の観察会が登録されました。観察会の開催結果については、COP10 開催期間中に行われた「地球いきもの EXPO in モリコロパーク」において発信しました。

##### ○ 国際生物多様性の日・COP10 開催半年前記念行事「記念フェスティバル」

国連の定めた国際デー「国際生物多様性の日」と COP10 開催半年前を記念して、平成 22 年 5

月22日（土）、23日（日）の2日間、オアシス21「銀河の広場」（名古屋市東区）において記念フェスティバルを開催しました。COP10 や生物多様性について楽しみながら理解を深めることができるトークセッションやクイズ、ミニコンサート、子どもたちによるプレゼンテーションなどのステージプログラムのほか、生物多様性保全の取組を進める NGO、企業、行政機関など21団体によるブース展示が行われ、2日間で87,000人が来場しました。



COP10 開催半年前記念行事

#### ○ 国際生物多様性の日・COP10 開催半年前記念行事「記念シンポジウム」

記念フェスティバルとあわせ、平成22年5月22日（土）、愛知芸術文化センター「アートのスペースA」（名古屋市東区）において記念シンポジウムを開催し、200人が参加しました。分子生物学者の福岡伸一氏を講師に迎えた記念講演とパネリスト5名によるパネルディスカッションを実施しました。

#### ○ COP10 あいち・なごや絵画・写真コンテスト

身近な自然の美しさに目を向けその大切さに気づいていただくとともに、COP10 開催の機運を醸成するため、日本各地の自然、生きもの、風景などをテーマとした絵画と写真を公募する絵画・写真コンテストを実施し、計1,668点（絵画975点、写真693点）の作品の応募がありました。優秀作品13点は、10月9日（土）にオアシス21（名古屋市東区）で行われたCOP10 情報発信ステーション in オアシス21のオー

プニングで表彰されたほか、COP10 開催期間中、連携・交流事業3会場等で展示されました。

#### ○ 国連生物多様性の10年記念行事「ポストCOP10 フォーラム」

平成22年12月の国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」のスタートにあたり、COP10 の成果や様々な主体の取組を総括し、今後の取組について議論するフォーラムを、平成23年1月16日（日）、愛知県産業労働センター（名古屋市中区）において開催し、プレイベント等を含め延べ約2,300人が参加しました。



ポスト COP10 フォーラム

#### ○ COP10 開催記念植樹～未来へ育もう、COP10 の森～

COP10 の開催を記念するとともに、COP10 の成果を未来へ引継ぎ、生物多様性に配慮した地域づくりを進めることを目的とした記念植樹を、平成23年3月6日（日）、愛・地球博記念公園（長久手町）及び戸田川緑地（名古屋市港区）において開催しました。2会場合わせて、152組、503名の方が約1,400本の苗木を植樹しました。

#### ○ その他の取組

COP10 や生物多様性の大切さについて広く広報するため、リーフレット、漫画、PR映像、パネル、ピンバッジやエコボールペン、ステッカーなどの広報グッズを作成・配布したほか、公式ウェブサイトや「COP10 ニュース」によりCOP10 の最新情報を広く発信しました。また、COP10 のPRや開催機運の醸成につながるNGO、企業、学校、研究機関、自治体など各主

体の事業を登録する制度「COP10 パートナースhip事業」を実施し、平成20年10月から平成22年12月までの募集期間に1383件の事業を登録しました。

#### (イ) 県による取組

##### ○ いのちを支えるもりづくり事業

県は、平成21年から、「植樹」を通じて生物多様性への理解を深め、更なる環境保全活動への取組のきっかけとすることを目的とした「いのちを支えるもりづくり事業」を実施しています。平成22年度は以下の取組を行いました。

##### ・「小さなもりを守り隊」事業

県内の幼稚園、保育園児が植樹などの環境活動に取り組む「小さなもりを守り隊」事業を実施しました。平成22年5月21日に愛・地球博記念公園内の愛知国際児童館で開催した結成式には、34園、347人の園児が参加し、植樹等の活動を行いました。平成22年10月5日（火）、6日（水）に開催した活動報告会には6園から687名の園児が参加しました。



「小さなもりを守り隊」活動報告会

##### ・COP10に向けた市町村リレー植樹

COP10の開催機運を醸成するため、県内市町村を植樹でつなぐリレー植樹を実施しました。平成22年3月の東栄町を皮切りにスタートした植樹のリレーは、COP10が開催された10月まで、13市町村を結び、約4,000人の参加者が約13,000本の植樹を行いました。

##### ○ 身近な生きもの発見事業

県は、小・中学生を始めとした県民に、身近

な場所で観察できる生きものを通じて生物多様性に対する関心と理解を深めてもらうため、平成21年度から平成22年度にかけて「身近な生きもの発見」事業を実施しました。

参加者から報告のあった内容はwebページで紹介しました。

##### ○ クリーンアクション for COP10

平成21年度から22年度にかけて、COP10で来県する会議参加者等を美しい環境で迎えようと、県、名古屋市及び環境省中部地方環境事務所を始めとする国の地方機関の呼びかけにより、「あいち・なごやクリーンアクション for COP10」を実施しました。平成22年度は、5月から6月までと9月から10月までの2回、東海3県の伊勢湾流域連携キャンペーンを兼ねて実施し、合計92万人の県民が参加しました。

##### ○ 私たちの暮らしと生物多様性発信事業

平成22年6月27日（日）、日進市民会館（日進市）において、暮らしの中で身近な生物多様性の恵みである「食」をテーマにしたシンポジウムあいちのいのちいただきます～いのちの恵みを体感！「生物多様性クッキング」を開催し、約400人が参加しました。また、COP10開催期間中には、生物多様性交流フェア会場（愛知県ブース内）において、24人の県民で結成した「あいちのいのちいただき隊」による「生物多様性クッキング」の実演を行いました。



あいちのいのちいただき隊「生物多様性クッキング」

##### ○ COP10等普及啓発事業

平成22年5月から10月にかけて、COP10の開催機運の醸成と生物多様性の普及啓発のために結成された「あいち いきものキャラバン隊」

が、県内全市町村を始め、東京、大阪、中部 8 県（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、三重、滋賀県）の 184 会場を回り、計約 55,000 人に対し、参加型ゲームの実施や環境に配慮したグッズの配布などの PR 活動を行いました。また、同キャラバン隊は、生物多様性交流フェア会場と地球いきもの EXPO 会場の愛知県ブースにおいて運営スタッフとして活躍しました。



あいちいきものキャラバン隊

#### ○ 生物多様性親子セミナー

平成 22 年 6 月から 10 月にかけて、県民事務所等が中心となり、それぞれの地域ならではの「素材」を活用しながら自然と触れあう「生物多様性親子セミナー」を開催しました。県内 6 地域において延べ 45 回行われた自然観察会やエコツアーなどの催しに計 2,075 人が参加しました。

#### ○ COP10 開催記録映像及び記録誌作成事業

COP10 にあわせて様々な主体が行った取組や、愛知の生物多様性の恵み、県内市町村の独自の取組などを記録し、記録映像（DVD）及び記録誌にまとめました。これらは、市町村始め関係機関に配布され、各自治体の貴重な記録として活用されています。

#### （4）連携・交流事業

COP10 開催期間中、国内外の NGO、大学・研究機関、企業、行政機関など多様な主体がそれぞれの活動の発表・交流を行うとともに、一般県民が楽しみながら生物多様性や COP10 の意義について知ることができる事業を、白鳥地

区（名古屋市熱田区）、愛・地球博記念公園（愛知郡長久手町）、オアシス 2 1（名古屋市東区）の 3 会場で開催しました。

#### ア COP10 支援実行委員会主催

##### （ア）生物多様性交流フェア

平成 22 年 10 月 11 日（月・祝）から 29 日（金）まで、COP10 の会議会場である名古屋国際会議場に隣接する白鳥地区（白鳥公園、熱田神宮公園、名古屋学院大学）において、生物多様性をテーマとした国際的な発表・交流展示会を開催しました。国内外の政府・自治体、国連機関、国際機関、NGO、大学、企業等 207 団体が生物多様性をテーマにブース出展を行ったほか、地球いきもの応援団などの著名人によるトークショーや一般公募によるプレゼンテーション等 63 枠のステージ発表も行われました。また、フォーラム会場では、国内外の NGO、企業、行政機関等が計 120 の発表を行いました。3 週間の開催期間中、118,647 人の来場者がありました。



会場の様子

#### （イ）地球いきもの EXPO in モリコロパーク

平成 22 年 10 月 9 日（土）から 29 日（金）まで、愛・地球博記念公園（愛知郡長久手町）において大人から子どもまで生物多様性の大切さを楽しみながら体験・体感できるイベントを開催しました。NGO、農林水産団体、企業、行政機関等 83 団体が生物多様性をテーマにブース出展を行ったほか、著名人によるコンサートやトークショー、ファッションショー、クイズ、里山探検ツアー、自然の中を走るジョギング大

会「ナチュラルロン」など多彩な催しを行いました。3回の週末で合計64,500人の来場者がありました。



ナチュラルロン

#### (ウ) COP10 情報ステーション in オアシス 21

平成22年10月9日(土)から29日(金)まで、オアシス21(名古屋市東区)において、著名人によるトークショーやコンサートのほか、COP10のライブ中継や最新情報を発信するイベントを開催しました。3週間の開催期間中に749,243人の来場者がありました。



ステージの様子

#### イ 愛知県主催

COP10開催期間中、県内市町村を始めとした愛知県の取組や各地の魅力を国内外に広く発信するため、愛・地球博記念公園内地球市民交流センターにおいて、COP10発表・交流事業 in

モリコロパーク「地球のいのち・交流ステーション」を開催したほか、COP10支援実行委員会が主催した生物多様性交流フェア(白鳥地区)及び地球いきもの EXPO in モリコロパーク(愛・地球博記念公園)において愛知県ブースを出展しました。

#### (ア) COP10 発表・交流事業 in モリコロパーク「地球のいのち・交流ステーション」

平成22年10月9日(土)から29日(金)まで、愛・地球博記念公園 地球市民交流センター(愛知郡長久手町)を会場に、県内市町村が地域の取組や魅力をブースやステージで発信するイベントを開催しました。会場では著名人によるトークショーやコンサートも行われ、3回の週末で計約65,000人の来場者がありました。



ステージの様子

#### (イ) 愛知県ブースの出展

COP10支援実行委員会が開催した生物多様性交流フェア及び地球いきもの EXPO in モリコロパークの会場に愛知県ブースを出展し、生物多様性保全や持続可能な利用に関する取組のパネル展示・プレゼンテーション、ワークショップ、生物多様性クッキングデモンストレーション、特産品・地産地消商品等の試食販売、愛知県の豊かな自然や生き物の映像・音声体験、農業高校生等によるワークショップなどを実施しました。